



大宮新幹線保線技術センター及び宇都宮新幹線保線技術センター における宿直体制見直しに関する申し入れ 3/13 団体交渉開催

1. 通年で実施してきた宿直を廃止する目的と根拠を明らかにすること。

(回答) これまで実施してきた設備強化により、宿直で対応すべき設備故障は減少していることから、社員の働き方改革を促進するために通年で実施してきた宿直を廃止する考えである。

組合

- ✓ 宿直を見直しする目的と根拠を明らかにすること。
- ✓ 回答にある**施策の目的と根拠を確認。**

会社

- 宿直が見直されることで勤務が柔軟に組めるようになり生産性があがっていく。
- 設備強化については、「分岐器合成枕木化」「雪害に備えた地点検知」「トンダレールの肉厚化」「次世代可動クロッシング導入」を導入してきた。宿直の対応実績は、2000年度～2009年度が47件、2014年度～2023年度は8件であり減少している。
- 「UMART-Green」「SMART-Red」でレールの画像・点群データを確認し活用していく。

2. 大宮新幹線保線技術センター及び宇都宮新幹線保線技術センターにおける宿直または呼び出しによる異常時対応の件数と内容を具体的に明らかにすること。

(回答) 異常時については適切に対応を行っているところである。

組合

- ✓ 申し入れで宿直および呼び出しによる「異常時対応の件数と内容」を具体的に求めているが、なぜ回答に記載がないのか！
- ✓ **宿直見直しに伴い異常時対応力が低下することはあってはならない！**

会社

- 「異常時対応の件数と内容」については**口頭でしっかり回答していく。**組合の指摘は主張として受け止めていく。
- 宿直による対応実績は、2023年度は20件である。事象にならないが員数確認などを対応したケースも入っている。呼び出しによる対応件数は2023年度が大宮新幹線保線技術センターで5件、宇都宮新幹線保線技術センターで1件であった。内訳は保守用車故障対応、不転換対応、架線垂下対応などであった。
- 1人宿直は連絡要員という位置づけであり、当番管理者への連絡が遅れるようなことはない。

3. 宿直廃止に伴い勤務発表時に指定されていた当番者の役割と今後の運用を明らかにし、社員の負担にならない体制とすること。

(回答) 引き続き、円滑な業務運営を行っていく考えである。

組合

- ✓ 勤務発表時に指定される当番管理者の役割は何か？また、宿直見直しに伴う変更はあるのか？
- ✓ 当番管理者に指定された管理者から負担の声が出されている。組織として当番管理者が必要であれば位置づけを明確にすべきである。

会社

- 当番管理者の役割は異常時対応の連絡であり、宿直の見直しで役割が代わることはない。呼び出しは引き続き権限のある管理者が行うものであり大きな混乱はないと考えている。なお、当番管理者の役割などが明確に記載されたものはない。
- **当番管理者の位置づけは、異常時の速やかな連絡である。**

4. 大宮新幹線保線技術センター及び宇都宮新幹線保線技術センターにおける通年の宿直体制の見直しでは要員削減を行わないこと。

(回答) 引き続き、業務に必要な要員は確保していく考えである。

◆ **宿直見直しに伴う要員削減は行わない！**

確認

団体交渉で確認したことをもとに、今後も新幹線の安全と高い輸送品質を確保していこう！